

視覚障害

その研究と情報

180号

2002
July



特集 ● ————— 1

ISO/IECガイド71

初の点字版と共に、完成。 ◎星川安之

talk to talk ● ————— 19

バリアフリーを求めて3年

—本番迎える電子投票— ◎堀利和 / 福井哲也

今を走る ● ————— 29

愛と平和を訴えるスーダンからの留学生、

ヒシャム・エルサールさん ◎山口和彦

シリーズ 働く ● ————— 34

ワークアイ・船橋 ◎橋本京子

寄稿 ● ————— 40

米国の大学における障害者支援システムの現在

2001年AHEAD大会から ◎広瀬洋子

★ ————— 52

平成14年度大学合格並びに進学状況

■ブレイルノート (点字ディスプレイ)

ブレイルファミリー
対応機種

KGSの点字技術を集大成したスマートかつハイエンドな点字ディスプレイ

Braille Note 46X

BN46X ¥449,000 (非課税)

新登場



- 点字ディスプレイ「ブレイルノート」は、点字利用者のパソコン利用の強力な支援ツールとして、正確でリアルタイムな点字情報を伝達する必携コミュニケーションツールです。新開発:ブレイルノート46Xは究極の点字ディスプレイとして、さまざまな便利機能を付加した、コストパフォーマンスに優れた、スマートでコンパクトな世界最先端の点字ディスプレイです。
- 点字文書の読み書きや校正はもちろん、時計、アラーム、カウントダウン・タイマー、ストップウォッチ、カレンダー、電卓など、日常生活の中で便利に使える機能やスケジュール帳、表の集計機能など、身の回りの情報管理に役立つ機能を内蔵、これらの機能は、点字ディスプレイ機能と平行して動作しますので、本体内部の文書を読みながら、パソコンを操作することが可能です。



Braille Note 46D

¥449,000

新価格 さらに求めやすくなりました。

¥349,000

■ブレイルメモ®

ブレイルファミリー
対応機種

あらゆるシーンで活躍する点字利用者の必携情報機器

Braille Memo BM16

Ver1.2.1 198,000円 (非課税)

片時も手放せないほど重要な存在となったブレイルメモは、昔ながらの不便な点字利用環境を根底から覆すほどのインパクトを持った新しい情報機器として、点字利用の利便性、有効性を再認識させ、点字文化をダイナミックに継承して行く最新便利ツールとして、着実に浸透、普及し始めました。ブレイルメモ16は8点16マスの点字表示部と各種入力キーをそなえた、バッテリー内蔵の小型軽量な携帯仕様で、いつでも、どこでも手軽にメモを取ったり、時計、電卓、カレンダーなど便利なアクセサリ機能を利用して、日常必要な身の回りの情報をしっかりと管理、あらゆる場面で、情報の有効利用ができる必携ツールです。



- カラーは、ブルーとピンクの2種類をご用意しています。

■点字ラベラー

ブレイルファミリー
対応機種

BL-100

¥98,000

点字用テープ

Aタイプ:250枚—¥3,900

Bタイプ:250枚—¥3,700

Cタイプ:250枚—¥3,500

簡単なキー操作で、液晶画面に表示された文字を選ぶだけで自動点字変換され、透明でフレキシブルな点字ラベルが作れます。点字名刺、薬袋、CD、食事メニュー、階段やエレベーターの案内、その他、手軽に点字情報を作って、視覚障害者をバックアップしましょう。



■拡大読書器

ブレイルファミリー
対応機種

MLA14

カラーモニター付

¥198,000~

(日常生活用具、非課税)

スウェーデンの専門メーカーが永年培ってきたノウハウと最新技術で生産された、コストパフォーマンスに優れた高品質な拡大読書器: Magnilinkシリーズ。(MLA14、MLA17、MLC15、MLC、MLP14)



■立体コピー作成機 (ピアフ)

苦勞して作っていた触図もカプセルパーバ利用のこの装置で簡便作成。

■点字プリンタ (ページックD、エペレスト)

スウェーデンの専門メーカー、インデックス社の使い易い操作性と経済性に優れた、点字プリンタです。

日韓親善——

愛光、ラパエルの家と姉妹施設に

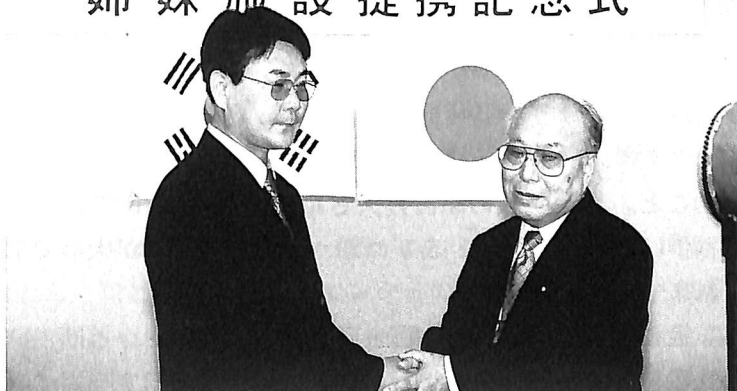
社会福祉法人愛光（千葉県・千田米蔵理事長）は社会福祉関係の総合福祉施設です。創立以来47年、地域や近隣諸国との交流を進めることを目的の1つとし、その一貫として、今回、ラパエルの家との姉妹友好施設となりました。



韓国のヨジユにあるはさん福祉会は、視覚障害者団体を母体に設立され、視覚障害関係のリハビリ施設や点字図書館等を経営しています。ラパエルの家はその中の重複障害者のための入所施設で、4棟に150名が生活しています。

姉妹施設提携の記念式典の催された5月には、イ理事長・キム理事長・チョン施設長が、課長・指導員・設計士ら8名で来日。「韓国では重度重複障害者の実態が把握されておらず、日本からの支援が欲しい」とのことでした。今後、職員の相互派遣研修や親善交流、盲重複障害者の援助技術に関する共同研究等を行なっていく予定です。

愛光・ラファエルの家 姉妹施設提携記念式



（文／高梨 憲司 写真提供／社会福祉法人愛光）

木曜はバザーの日

地域に支援を呼びかける桜雲会



鍼灸などの専門分野の点字本を作成している桜雲会（東京都・高橋昌巳理事長）は、毎週木曜日、事務所前の駐車場でバザーを行っています。

古本、絵の具、ノート、湯呑、洋服、鞆…。

様々な品物が並びます。3年前に年1回で始めたバザーですが、今は雨天を除く毎週木曜の開催となりました。品物は、地域の方々が提供してくださるとのこと。出版所長の高橋秀夫さんは「チラシ6000枚を、周辺の区内を配り歩いたりもします。まずは知ってもらうことが大事ですからね。」と話されます。

食品を扱わない日は無人で、募金箱だけ置いて店をひろげているという桜雲会。収益は、すべてベトナムの視覚障害学生の自立支援に充てているとのこと。



福祉作業所に「ロビー販売」を

杉並区 取組み



東京都杉並区では、区内の障害者授産施設などの小規模作業所を中心に、区役所のロビーを開放し、その活動の支援と区民への意識啓発を行なっています。

昨年9月に区役所入り口すぐ脇、1階ロビー部分に設



置された「障害者施設販売コーナー」では、区内の小規模作業所がクッキーや手すき葉書、工芸品など作業所の製品を販売しています。「私たちは、共に働き、学び、だれもがはつらつと生きるまちをつくります（区憲章より）」。障害の重度・重複化で、小規模作業の事業強化が望まれる中、公的助成の行き届かない小規模作業所も多い現状を鑑みて、活動の一助になるようにと始められた取り組みです。

視覚障害者支援総合センターの「チャレンジ」も、月2回、「絵はがき」や「大豆どん」などの自主製品とセンターの啓発図書を出店。利用生自らが販売を担当し、視覚障害者の就労や社会参加について、区民と共に考える場にしています。

（文・撮影／橋本京子）

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

次号 (2002年9月 No.181) 予告

特集 点字サインのガイドライン作成
～より有用なサインを考える～…… 高橋秀治

talk to talk 障害者福祉の国際比較…… 笹川吉彦/マウアー

シリーズ働く ラビット……直井 鉄

今を走る 高知女子大学講師 吉野由美子さん……香川スミ子

視 覚 障 害 —その研究と情報—

2002年7月 No.180

年間購読料 4,200円 (送料とも)

発行日 2002年 7 月 1 日

編集人 高橋 実

(連絡先) 社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167 - 0043 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号 Keiビル

電話 (03) 5310 - 5051 (代) FAX (03) 5310 - 5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157 - 0073 東京都世田谷区砧 6 - 26 - 21

印刷所 株式会社 大活字

〒101 - 0061 東京都千代田区三崎町 1 - 1 - 9 三崎町ビル 3 階

電話 (03) 5282 - 4361 FAX (03) 5282 - 4362